

	子どもの成長段階	親の働きかけ・心がけ
乳幼児期～就学前	●<u>家庭を中心に身近な世界がひろがっていきます。</u> ☆笑顔で話しかけながら接していきましょう。 ☆寝返り・おすわり・ハイハイ・歩く等いろいろなことが出来るようになります。 「よいことと悪いこと」に気付き始めます。 ☆貸したり借りたり、あげたりもらったりができるようになります。 ☆簡単なルールの下、何人かで遊べるようになります。 ☆いたずらやケンカもでできます。 ☆読み聞かせでは、お話（物語）の世界に入りこむようになります。	●<u>ふれあいや体験を大切にしましょう。</u> ☆笑顔と安心感を抱き人間を信じる基本となります。 ☆親子のコミュニケーションが大切です。 ☆「どうしたの？」と声をかけ、まずは「〇〇だったんだね。」と受けとめましょう。そして、「でもね～」とわかるように話してあげましょう。 ☆「なんで？なんで？」と繰り返し尋ねてくるようになります。丁寧に、顔を見て、答えてあげましょう。 ☆基本的生活習慣（早寝・早起き・あいさつ・お昼寝・外遊び等）を心掛けましょう。 ☆絵本の読み聞かせは、本への興味を芽生えさせるとともに豊かな心を育む礎になります。 ☆一緒に感動できる体験が大切です。「きれいだね」「すごいね」と言葉に出してみましょう。
小学生（低学年）	●<u>入学を機にさらに世界が広がります。</u> ☆友達が増えるとともに行動範囲が広がります。 ☆友達との関係も少しずつ深まり、一緒に遊んだり、めあてをもって行動したりするようになります。 ☆道徳心が身に付き始めます。 ☆共同遊びができます。（目的に向かってみんなで遊ぶ、役割を分担しテーマを持って楽しむ。）	●<u>ふれあいや体験、他者との関係も大切にしましょう。</u> ☆小学校の入学は期待と不安でいっぱいです。期待は大きく膨らませ、不安にはそっと寄り添ってあげましょう。 ☆初めての登下校も大きな冒険です。それに慣れたころが要注意です。たまには付き添って歩いてみましょう。 ☆友達と遊ぶ機会が増えてきます。出かけるときには「どこで？誰と？帰りは何時ころ？」と声をかけ、遊びの様子を把握しておきましょう。 ☆あいさつは人間関係の基本です。家庭内でも「おはようございます」「ってきます」など時と場に応じたあいさつを交わしましょう。 ☆弱いものいじめはしない、お年寄りはいたわる、困っている人は助けるなど、具体的な場面をとらえて教えましょう。 ☆お手伝いは家族の一員としての自覚を芽生えさせます。玄関の靴をそろえる、郵便物を取ってくるなど、毎日できることをやらせてみましょう。 ☆できたことは褒めましょう。できるためにがんばったことも褒めてあげましょう。褒めてもらったことは意欲に繋がります。



	子どもの成長段階	親の働きかけ・心がけ
小学生（高学年）	●個性が芽生えてきます。 ☆知的好奇心が芽生える時期です。 自ら課題を設定し、自ら学ぶこともできるようになってきます。 ☆友達との関係が優先されることが多くなります。 ☆身体的な成長が著しくなり、自分の能力に自信を持つようになります。 ☆子どものよい行動や言葉づかい、めあてに向けて、がんばりなどができるようになります。 ☆行動範囲が広がり、友達や仲間とのつながりが強くなります。 ☆集団生活のルールを理解し、集団の一員として自覚ある言葉づかいや行動をとります。	●わが子のよさ（個性）をのばしましょう。 ☆生活のリズムを確立させましょう。あいさつは親が手本を示すことが一番です。「おはようございます」「こんにちは」「ってきます」等、時と場合に応じたあいさつをしましょう。 ☆家族の一員としての仕事やお手伝いを通して、「ありがとう」「助かったよ」とお礼の声かけ、喜びや充実感を育てましょう。 ☆つい友だちや兄弟と比べたくなりますが、好ましいことではありません。いろいろな体験やふれあいを通してその子自身のよさや持ち味を見出しましょう。 ☆できるようになったこと、がんばったことは、その子にとっての財産です。たとえ小さなことでも褒めることを通して個性をのばしましょう。 ☆お小遣いの使い方、自転車の乗り方、対人関係などを通して社会的な規範を学び始める時期です。良いことは大いに褒める。まちがったことはしっかりと指導する。親の姿勢を示すことが大切です。 <i>注）体罰や暴言は感情のはけ口ではありません。</i> ☆スマホ等の利用については、その子の実態に応じて家庭でのルールを決めるとともに、効果的な活用についても話し合いたいものです。
中学生	●自分の世界への第一歩です。 ☆他人の目を意識するようになります。 ☆「反抗期」といわれる時期です。 ☆自分の考えを持つようになります。 ☆集団の一員としての行動を通して、連帯感や責任感が芽生えてきます。 ☆仲間と協力しながら物事を行い、連帯感や責任感を身に付けます。 ☆ボランティア活動に参加し、社会の一員としての自覚が高まります。 ☆命の大切さを知り、自然や公共物を大切にします。	●適切な距離をとりつつ、見守りましょう。 ☆適切な距離をとるとは難しいことですが、子どもの言うことに耳を傾けることから始めましょう。 ☆ノックをする、持ち物を勝手に見ないなど、子どものプライバシーを大切にしましょう。 ☆学業成績やスポーツでの勝敗はとても大切なことです。しかし、それだけを物差しにしないようにしましょう。成績は点数化されますが、思いやりややさしさ、美しいものを感じる心は点数化できません。 ☆大人の成功談や自慢話はうとうとしいものです。時には失敗談なども織り交ぜて共感を心掛けたいものです。 ☆間違った行動に対しては厳しくしかることが大切ですが、お互いに冷静な時に親の願いや考え方を話しましょう。 ☆自分で決めて責任ある行動をさせ、達成感を味わえるように見守りましょう。

注）子どもの成長には個人差があります。